

【中区】令和 8 年第 1 回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 2 月 6 日 午後 3 時 15 分 ～ 午後 4 時 00 分
場 所	中区役所 7 階 703 会議室・704 会議室
出席者	<p>【座 長】福島直子議員</p> <p>【議員：1 名】伊波俊之助議員</p> <p>【中区：25 名】永井由香区長、梶原豊副区長、市川英毅福祉保健センター長、原田正俊福祉保健センター担当部長、青木隆浩中土木事務所長、田邊栄久中消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>議題 1 令和 8 年度中区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>議題 2 その他</p>
発 言 の 要 旨	<p>議題 1 令和 8 年度中区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>伊波議員：まずは、日々の業務プラスアルファで選挙対応をされて、本当にお疲れだと思います。そういった中、今日、このような時間を設けていただきありがとうございます。</p> <p>まず 1 点が、100 周年事業です。中区は開港の場で、いわゆる歴史的な部分があるのですが、100 周年を機に何か形に残るもの、あるいは復元していくものとか、そういった計画はあるのでしょうか。</p> <p>永井区長：今のところ何かを復元することは予定しておりません。内容にもよると思うのですが、予算的にもかなり厳しいところがありますので、今後そうしたものをどのような形でつくっていくかは、これからの検討になるかと思います。</p> <p>伊波議員：僕にも色々な声が寄せられてきています。この 100 年を振り返って、あるいはこの先の未来について、行政の皆さんも色々お考えになり、子どもの目線がすごく大事だと思っていらっしゃると思います。高齢の皆さんが子どもの頃に過ごしてきたときを振り返って「こういうのがあったのだけど、今もうないよね」とか。具体的には、橋に電気が付いていたけれど、いつの間にか無くなっているようで、「そういうものも</p>

復元したいよね」とか、そういう声も聞こえてきています。100年という区切りの中で、例えば町内会レベルに話を落とし込んでいって、合意をもって市の事業として行っていくというスタンスがあると思うのですが、なかなか町内会と関わりを持っていない方々にも、中区民として、「100周年に向けて何か御要望はありますか」と広く聞く場があってもいいのかなと思います。対面でなくてもいいです。その辺はどうでしょうか。

永井区長：90周年の時にも実施させていただいたのですが、区民提案事業というものを募集しようと思っております。区民の皆さまや、町内会だけではなく様々な活動をしている団体の皆さまから、「こんなことをやりたい」という御提案をいただいて、それに対して多少ではありますが、補助金を差し上げて実施していただく形で、我々だけではなく区内の皆さまと一緒に色々な活動をして、100周年事業をつくっていきたいと思っております。

伊波議員：町内会からの発信で事業が始まるのが一番スマートな形だと思うのですが、募集をしたときに、個人の方から色々な意見が出て「この町内は意見がすごく多い」となった場合、区から町内会に「こういう声が皆さんの町内で上がってきていますよ」と言っていて、自治会町内会でもんでいただいて、「こういう声をいただいているなら、町内会として100周年事業にこういう提案をさせてください」と。そのような形で、区民の皆さまが世代を超えて、色々な声がどこの町内から一番多く上がってきているのかを見ていただくのも面白いのかなと思います。自治会町内会の加入率が悪いのは、「魅力を感じない」という部分もあるので、町内会に入っていない人の声も貴重だと僕は思っています。業務が増える部分もあるかもしれないですが、是非取り入れてもらおうと嬉しいなと思っています。

永井区長：区民提案事業の募集にあたっては、記者発表もしますし、幅広く色々なツールで呼びかけていきたいと思っております。町内会に入っていない方からも「こんなこと一緒にできるよね」ということを広く募っていきながら、内容によって活動団体で完結できるものもあれば、町内会等の合意が必要なものもあると思うので、内容によっては私たちが繋ぎ役として町内会にお戻ししつつ行っていくという良い循環が、この100周年を契機にできるといいと思っております。その際、先生方の御協力もいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

伊波議員：よろしく申し上げます。最後に、1年生の皆さんに防犯ブザーを配布するという事業がありますが、中区は外国の方がたくさんいらっしゃいますので、外国の学校もたくさんあります。そういう学校は含まれない、含まれる、どちらなのでしょう。

阿部地域振興課長：手元に資料がないので後ほど回答させていただきます。

福島議員：9ページですが、地域防災力向上事業が重点事業で、新規事業も二つ入れていただいております。総額は8年度が920万円で、地震火災対策アドバイザー派遣事業は講師派遣の回数が9回とありますが、対象団体数はどのくらいという、ざっくりした事業計画が分かれば教えていただきたいと思います。

大木総務課長：地震火災対策アドバイザー派遣事業は、年20万円程度を見込んでおります。もう一つの新規事業の多言語対応啓発パンフレット更新と動画作成は、数十万円程度を見込んでおります。

福島議員：9回というのは派遣先が9つという意味なのでしょう。

大木総務課長：派遣先の数や回数は柔軟に考えております。1つの派遣先で1回でも構いませんが、複数回の実施が多くなると考えています。マンション防災アドバイザーは、1つの派遣先で5回まで受け付けていますので、同様に実態に応じて地域の方と相談しながら進めようと思っております。相談しやすい体制を整えておりますので、例えばマンション単位や自治会町内会単位だとか、マンションの管理組合などから、柔軟に受け付けたいと思っております。

福島議員：新年度に入ってから募集し、応募に応じて対応を考える感じでしょうか。

大木総務課長：そうです。地域の各団体の御事情を伺いながらと思っております。

福島議員：アドバイザーさんはどのような方なのでしょう。

大木総務課長：防災士などの資格を持っている方、それから行政との実績のある方等、我々ができない支援ができるアドバイザーを考えております。

福島議員：「備蓄品の充実」は具体的にはどのようなことでしょうか。

大木総務課長：御事情を伺いながら毎年配備をしていますが、近年、夏が酷暑ですので、数年かけて暑さ対策関連の配備をしていきたいと思っております。

福島議員：こちらから要望としては、今年は書いていないのですが、トイレ対策が非常に大事だと思っております。だんだん浸透してきましたが、行政が用意してお配りすると思われている方が一部いらっしゃるのですが、そうではなく「各家庭で御家族の状況に応じて回数分を御用意いただくのが基本ですよ」という啓発をちゃんとしないといけないと思っています。それもどこかで織り込んでいただけたらと思います。

大木総務課長：承知しました。

福島議員：重点事業の安全なまち・防犯対策推進事業です。第2回定例会に向けてパブコメを募集中で、条例をつくるということですから、その条例の内容にも応じたものになると思います。その中で見守り機能の付いた防犯灯を付けると聞きました。中区の事業としては、ここに記載のソフト的な施策が中心と考えてよろしいでしょうか。

永井区長：ハード的なものは市民局で、条例に基づいて施策が進んでまいります。区役所としては、それをきちんと区民の皆さまに伝えていくということと、今も行っておりますが、警察や防犯協会、防犯協力会の皆さまと連携して、そうした取組を進めていくところが一番重要と考えております。実際に始めてみてからのお声を局に伝えて、改善を図ってもらうということも、行っていきたいと思っております。

福島議員：中区内では、顕著な犯罪や、ニュースになるほどの犯罪は聞いていませんので、窃盗や自転車盗難等が多いのですが、そういう状況なのでしょうか。

永井区長：警察からいただいている情報としては、そうした状況です。この年明けも警察の方々とお話ししましたが、大きなものはないが、やはり繁華街を抱えている中区ですので、細かい事件事故等はあると伺っております。

福島議員：12ページの重点事業のみらい環境育成事業ですが、この間も本牧でクリーンアップ運動を行っていただきありがとうございました。新たな地域で、放置ではなくてポイ捨てのごみが目立つところを、みんなで清掃していく運動を展開していただけたらありがたいと思います。説明文に「多言語資料や相談体制強化が必要なため」とあるわけですが、この具体的な状況を伺いたいと思います。

金田資源化推進担当課長：中区はネパール人の方やベトナム人の方が急増しております。資源循環局で作成しているパンフレットの一部は、多言語に対応しているのですが、集積場所に貼る分別チラシがネパール語や

ベトナム語に対応していないので、予算を付けて作成したいと考えています。

福島議員：それが新規事業ということですね。そういう御相談が多くて、ネパールの人もこういう情報はないでしょうから。それから、「食品ロスや海洋プラスチックごみの削減に取り組みます」とあるわけですが、これは具体的にどのような取組を想定されているか伺いたいと思います。

金田資源化推進担当課長：食品ロスについては、食べ切りは当然ですが、中区では精力的にフードドライブの活動をさせていただいています。区役所に常設しておりますので、そうしたことをしっかり行っていきたいと考えています。海洋プラスチックごみについては、集積場所等の美化であるとか、ポイ捨て対策、分別をしっかりといただくことで結果的に海洋プラスチックごみの削減につながります。先ほど申し上げたまちの美化に力を入れることが、この施策になると考えております。

福島議員：そのとおりだと思っておりまして、なるべく拾うようにしているのですが、拾えないときもあるので、よろしく願います。重点事業中心にまいます。17ページの重点事業ですが、減額している理由は何でしょうか。

倉田福祉保健課長：今年度が計画策定の年でしたので、業者への編集委託費用や、冊子類を作るためのデザイン費用や印刷費用など、5年に一度の策定年のみかかる費用が計上されておりました。来年度はそれが無くなり、元に戻るということで、減額になっております。

福島議員：19ページの重点事業も、30万ですが減額になっておりますが、これも色々なやり方があると思いつつ、大変大事な取組と思います。老人クラブは主体的に色々やっただいただいでいますが、もう少し幅広く、老人クラブに入っている人ばかりではないので、「機会を増やす」という取組はどのように推進をすることができるのかが気になりました。

品田高齢・障害支援課長：介護予防と保健事業の一体化事業が中区でも始まり、これは全市的に展開されていきますが、国保データベースからフレイルやフレイルのリスクが高い方たちを抽出するハイリスクアプローチや、保健師等が出向いた講座等でフレイルチェックシートを用いて対象者を抽出するポピュレーションアプローチがあります。そのなかから、対象者の方をハマプロへの参加につなげていくものです。老人クラブに入っていない方や社会的なつながりが少ない方にも、広く介護予防に関心を持っていただき、参加していただく取組です。中区は1月末時

点で300人弱の方が対象で、40人ほどの方がハマプロに参加している状況でございます。こちらについて引き続き周知に努めていきたいと思っております。

福島議員：300人の方は、どのように把握されているのでしょうか。場を設けて、そこへ「来てください」と、お呼び掛けをする形でしょうか。

品田高齢・障害支援課長：1つが国保データベースから取った情報で、フレイルやフレイルリスクの高い方のリストが出てきます。その方に、ハマプロに参加する興味があるかというお手紙をお送りし、返信のあった方に呼びかけをしております。もう1つは、フレイル予防や介護予防などの講座で興味がある方にアプローチをして、ハマプロへの参加を呼びかける形もございます。

福島議員：気になる方は、地区センター等に来ていただくのでしょうか。

品田高齢・障害支援課長：そのような形もございます。我々が地域に出て地域ケアプラザ等で介護予防講座をする時に、参加者の方にフレイルチェックシートを実施していただき、対象となる方にお声がけしていく方法をイメージしていただければと思います。

福島議員：福祉保健センターに、「ちょっと気になるので来てください」という感じですか。

品田高齢・障害支援課長：我々が区役所や地域で実施する姿勢改善講座や介護予防講座等の場で、フレイルチェックシートをさせていただき、フレイルやフレイルリスクの高い方に連絡をして、ハマプロへの参加につなげていくものでございます。

福島議員：21ページの「みんなで子育て事業」ですが、これも重点事業ですけれども、のんびりんこの開所日につきまして、火曜日から土曜日までだと思うのですが、ほかの区で子育て中の議員が質問しておりまして私も「ああ、そうだ」と思って気になったのですが、日曜日開所の要望がないかを確認したいと思いました。

稲葉子ども家庭支援課長：日曜日を年に三、四回は開所しております。日曜日に開所をすることによって、両親で来ていただくことができるということで、そういうことがあったほうがいいのではないかとということで、先立って開所しております。

福島議員：そのお知らせは、のんびりんこですのでしょうか。

稲葉子ども家庭支援課長：お知らせはのんびりんこのホームページです。区のチラシにも載せております。

福島議員：中区は行っていただいているということで、ありがとうございます。100周年記念ステッカーは、せっかく100周年だから、子育てしている皆さまに、という感じなのでしょうか。

稲葉こども家庭支援課長：100周年記念として、ステッカーにこども家庭支援課や児童相談所等、お母さんが困ったときにすぐ電話ができるような番号を掲載し、貼って記念になるものができたらいいのではないかとということで作成します。

福島議員：お母さんたちにだけ特別というか、差別化して、子育て中の人だけもらえるステッカーということでしょうか。

稲葉こども家庭支援課長：母子手帳をお持ちのお母さん方にのみお渡しします。

福島議員：英語、中国語、やさしい日本語の外国の方に対する資料作成ですが、この需要の状況は、職員の皆さまも「必要だな」と思われると思うし、「私は日本語よく分かりません。読めません」という方の割合なのか、必要性がどの程度あるのでしょうか。100人中何人等です。

稲葉こども家庭支援課長：実際に中国語の通訳の方が対応した数は後ほどお伝えしたいと思います。現在、窓口を見ていると、英語であったり中国語の方もけっこういらっしゃるっており、通訳の方もそうですが、タブレットを使用していたり、翻訳器機を使用しながら対応をしています。外国人の方が窓口にいらっしゃる人が多いと思っております。詳しく説明をしないとちょっと分かりにくい、実際に母子手帳を発行するにあたって、「こんなに時間がかかると思わなかった」とおっしゃる方もいらっしゃるの、流れ等についても外国の方にもきちんと最初に説明したほうがいいのではないかとということで、今回このような事業を考えました。

福島議員：「妊娠したら区役所に届け出る」ということは皆さん御存じで区役所に来るということでしょうか。

稲葉こども家庭支援課長：そのことは、御存じです。

福島議員：23ページのなかでこすくすくサポート推進事業ですが、説明文に人口に占める転入者の割合が9.6%と、約1割ということですから、これは多いと考えればよろしいでしょうか。

稲葉こども家庭支援課長：多いと思います。

福島議員：他区と比較して多いということなのですかね。また、子どもの頃住んでいて、大人になって転出して、子育てで戻ってくるというケー

	<p>スもありますが、中区に全くゆかりのない人が9.6%という調査はありますか。</p> <p>稲葉こども家庭支援課長：資料を確認してお答えさせていただきます。</p> <p>永井区長：手元に資料はないのですが、18区のこうしたデータがありまして、その中で中区はかなり上位だったと思います。</p> <p>福島議員：細かいところを教えてくださいありがとうございます。</p> <p>阿部地域振興課長：先ほど伊波先生の御質問にございました、防犯ブザーの配布先ですが、今年度は、市立小学校9校のみとなっております、800個ほど配付をさせていただきます。私学を含めるかどうかにつきまして、確保している予算の中で対応できるか検討させていただきたいと思います。</p> <p>福島議員：私学の人も含めると何人ぐらいになるものですかね。</p> <p>阿部地域振興課長：実態をつかんで、確保している予算で対応をしたいと思っております。</p> <p>福島議員：御寄附を募る等するといいいのかもしれませんが。</p> <p>大木総務課長：地域防災向上事業の地震火災対策アドバイザー派遣事業について約20万円と申し上げましたが、9団体に対し各3時間の派遣を見込み、約40万円と積算しております。多言語対応啓発パンフレット更新と動画作成でございますが、パンフレットは約30万円、新規で行う動画作成は約80万円と積算しております。訂正させていただきます。</p> <p>議題2 その他</p> <p>福島議員：次に議題2のその他ですが、皆さまから何か御発言はございますか。特にないようでございますので、本日の議題は全て終了いたします。</p>
<p>備 考</p>	